

山ぼうし

第17号 平成18年 8月30日

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、

花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし

の碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。



稔りの秋

校長 及川 敏 昭

夏休みも終わり、早いもので9月7日より第2期の考査が始まります。また、16日からは高校生の就職試験が解禁となります。日ごろ、生徒諸君はそれぞれの目標の実現向け、この夏休み期間中は大いに勉強し努力をしてきたと思います。これから迎える定期考査や就職試験、新人戦など、いままで一生懸命に流した汗の量だけ秋にはきっと多くの稔りがあることを期待しているところです。

さて、全国高校野球選手権大会での3連覇に挑む駒大苫小牧と初優勝を目指す早稲田実業との甲子園大会決勝での再試合は早稲田実業が球史に残る熱戦を制し、悲願の初優勝を遂げました。報道によると早実の斎藤投手はどんなに練習で疲れていても毎日の授業に一生懸命に取り組み、そして予習復習などの勉強も決して欠かしたことがない文武両道の選手ということでした。

この記事を見て感じたことは、やはり運動選手というのは練習だけでは

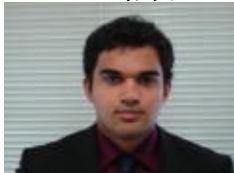
なく普段の学習もきちんと出来なければ、ここ一番という試合には勝てないのだなと強く感じました。

本校においても部活動に励む生徒のほうが、部活をしないで帰宅する生徒よりも学習成績が良いという傾向がありますが、このことは、部活動に使っていたエネルギーをすぐに切り替えて勉強に向けることができるという頭の切り変えと集中力が普段の生活の中で自然に身につけているからだと思いません。

やはり一流の選手になるには、毎日の練習だけではなく、日ごろ、学習や勉強に一生懸命に取り組み、そして多くの本を読み、競技技術や技能だけではなく、人間としての心や情操も豊かにならないと強くないのです。

毎日厳しい残暑が続きますが、特に3年生はこれから始まる就職試験や入学試験に向け全力で取り組み、大きな成果を上げて充実した稔りの秋にして下さい。

○新任ALT紹介



名前 : ナジャフ・アリ
 出身地 : イギリス (ロンドン)
 大学 : ロンドン大学 (UCL)
 年齢 : 21才 (剣道初段)
 コメント : よろしくお願ひいたします。

※ナジャフは、日本語での会話が初来日とは思えないほど流暢です。気軽に話しかけてください。

9月行事予定

9月 4日 (月) 献血
 9月 7日 (木) ~ 12日 (火) 第二期定期試験
 9月 14日 (木) 交通安全講話
 9月 15日 (金) 基礎製図検定
 9月 16日 (土) 就職試験開始
 9月 21日 (木) 校内ロボット競技大会
 9月 22日 (金) 特別休業日
 9月 28日 (木) 大掃除
 9月 30日 (土) 電気工事士技能試験

<地区PTA日程>
 9月 1日 (金) 新里川井地区
 9月 4日 (月) 宮古東、津軽石地区
 9月 5日 (火) 宮古中部、宮古西地区
 9月 6日 (水) 山田地区
 9月 8日 (金) 河南、岩泉井地区
 9月 9日 (土) 重茂地区

全国情報技術教育研究会東京大会に参加して

機械科 山野目 弘
電気電子科 岩澤 利治



平成18年8月3日(木)4日(金)の2日間、東京都品川区立総合区民会館「きゅりあん」にて、第35回全国情報技術教育研究会が開催されました。本校から「宮古湾周辺模型の製作～津波防災へのアプローチ～」と題して6月の東北大会に続き発表してきました。

大会では全国各地から15件の発表があり、20分の持ち時間の中で情報技術に関する研究成果をそれぞれ工夫を凝らしたプレゼンテーションで展開していました。

本校の発表は、昨年度機械科が製作に取

り組んだ宮古湾周辺模型に、電子機械科・電気電子科が学科の専門性を活かし、津波防災ホームページ作成や造波装置をUSBから制御する等の情報技術を組み合わせたと内容です。大会ではその製作技術と津波防災活動として地域へ貢献する取り組みを高く評価していました。

また、東海大学の曲谷一成教授の講演や、全国の先生方の発表も素晴らしいものでした。アメリカの口ボット大会参加の事例や、環境共生技術に関する研究成果、携帯電話での学習システム開発などがあり、生徒の創造力・発想力・製作能力を伸ばすことには無制限の可能性があることを改めて感じ、大いに刺激を受けました。これを機会に今後の研究活動の更なる発展に繋がってほしいと思います。



「空飛ぶ車いす in 韓国」派遣生徒帰国

本校では2003年より車いすの修理を設備工業(建築設備)科を中心としてボランティア活動を行ってきた。昨年は津軽石にある養護老人ホーム「清寿荘」を訪問し車いす3台、歩行器5台を施設職員や利用する人たちの目の前で修理し喜んでいただいた。自分の孫みたいな子供の手によってピカピカに再生される車いすを囲み、額に汗する真剣な生徒の姿に感動していたことが思い出される。

この度の訪韓はこうした活動が認められ、宮古市社会福祉協議会専門委員の有原領一さんと本校から佐々木和治君(河南中:野球部)、佐々木忠幸君(河南:野球)の2名が派遣事業の一員として、19日から24日までの6日間、釜山広域市障害者総合福祉館やソウルで車いすを修理するほか、修理の仕方を現地の高校生らに指導してきた。

岩手県からは他に水沢工業から2名の生徒が参加指導をした。車いす8台を持参しての指導は注目を受け、岩手人の高校生らしいひたむきな姿勢がKBSテレビ局の報道でも話題を集めた。

ソウルでも市あげての歓迎を受け、最終日程まで両国の高校生は意気合わせて修理に臨んだ。韓国も連日の猛暑だったらしく、後で引率された先生から聞くと、岩手から参加した本校、水沢工業の生徒は派遣事業のチームの前面にたって模範的に活動したと聞かされた。

帰国した彼らを出迎えたところ、その表情からも現地での活躍ぶりが伺えた。家まで送る二人の車中での談話は「今まで教えられたことを相手に教えるというすごく貴重な体験をした」「修理した仲間と一緒に食事をし楽しかった」「韓国の生徒は明るく積極的に話しかけてくる」「英語が通じた」等々の感想を聞いた。彼らは本当に有意義な6日間を過ごし、高校生のこうした活動を通して心の豊かさにふれることができ、事業の活動の大切さを感じた。



水沢工業鈴木教諭と岩手の高校生